

笹川保健財団 地域啓発活動助成
助成番号：2022-0013

2023年 2月 20日

公益財団法人 笹川保健財団
会長 喜多悦子 殿

2022 年度笹川保健財団地域啓発活動助成
活 動 報 告 書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

在宅医療普及活動

所属機関・職名 にじのはな株式会社 代表取締役

氏名 森山 薫

1. 活動の内容・実施経過

月日	活動内容
10月7日	9月12日に助成通知後に口座を開く
10月13日	●活動趣旨を説明し国泰寺地域包括支援センター・行政に共催の依頼する 地域包括支援センターは快諾を得る 行政は個人の活動の共催は難しいが、会場を無償で借りることです承を得る
10月20日	●国泰寺地域包括支援センターと話し合い 講師を国泰寺圏域の中で決定する 在宅医（河面内科医院）、ケアマネ（ふれあいケアプランセンター・広島中央） 調剤薬局（すずらん薬局）、訪問看護（にじのはな在宅看護センター） 遺族・介護者（肝臓で長い闘病のうえ在宅看取りの事例） 他、訪問歯科・栄養士なども話し合いでは候補にできるが、今回は上記で決定した
10月27日	●会場、日程調整 会場：中区地域福祉センター 5階 大会場 日時：1月29日（日） 13時～17時 ●登壇者の快諾を得る
11月中	●関連者全員でメールでやりとり、市民講座の趣旨・概要を伝えたくてメールでのやりとりを行う
12月23日 19～20時	●第1回打ち合わせ会議（ハイブリッド） 欠席者には議事録を送信に意見調整 ・各々の登壇者の話す内容を確認し、タイトルまで決定 ・関わる事例が各々違うため、在宅医・訪問看護師・調剤薬局・ケアマネが 在宅医療のなかで各々ができることを事例を交えて発表することにする ・チラシデザインはプロに頼む予定であったが、時間と経費がかかるので自前とする ・事前にPPをシェアする
1月13日	●チラシデザイン決定 印刷注文（500枚試し印刷後、12,000枚追加で依頼）
1月23日 19～20時	●第2回打ち合わせ会議（ハイブリッド） ・効果的な登壇の順番を決定 主催者である森山が、今なぜ在宅医療なのかを説明後に訪問看護について ⇒ケアマネ⇒調剤薬局⇒遺族（介護者）⇒在宅医 ・当日の進行について決定 高齢者の参加が多いと推測するので、1講演につきそのつど質問コーナーを設ける ・当日の役割分担 地域包括より3名、にじのはな在宅看護センターより3名 回らなければ、参加されているケアマネに声をかけていく ・pp出来次第、にじのはなのアドレスに送信 配布資料を4分割カラー印刷で80部準備
1月29日	活動当日

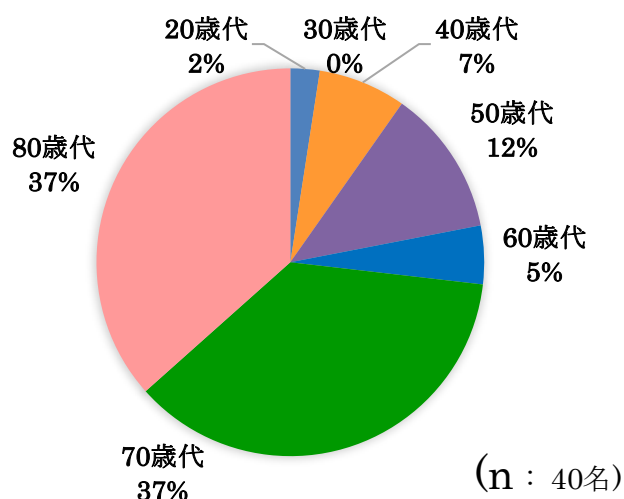
2. 活動の成果

1) 参加人数と年齢別の内訳

一般 44 名

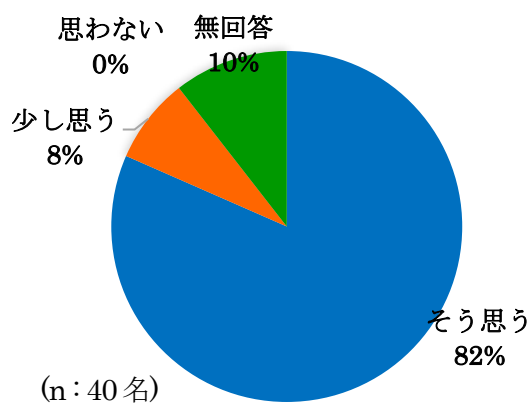
介護保険関連事業所職員 12 名

アンケート回答 40 名 (回収率 71%)

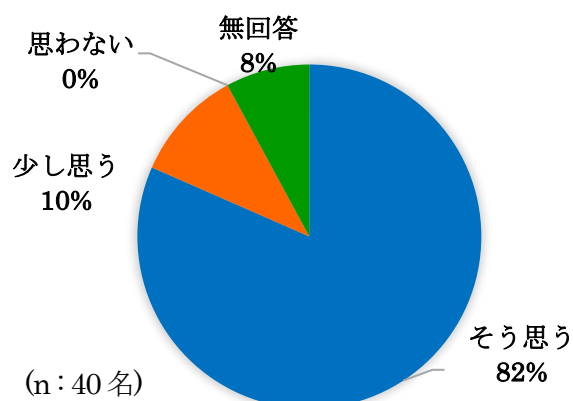


2) アンケート結果より

① 今回の講演は期待に沿うものでしたか



② 在宅医療に関する理解は深まりましたか



③ もし介護が必要になったらどうしますか

- ・最低限のサービスを利用しながら自立するという意思をもって生活したいと思います。(限られた介護保険の財源を無駄使いしない。家族の力を借りる。)
- ・本人・家族が今後どう過ごしたいか、意思の統一ができるといいと思いました。
- ・一人暮らしです。勉強になりました。社会につながって生活したいと思います。
- ・介護が必要になっても、在宅で最期まで暮らしたい。2 名
- ・家で生活したい 2 名
- ・最後は住み慣れた自宅で家族に囲まれて (在宅看護のスタッフさん)、旅立つのが理想です。今日の話聞いて頼む入口が開かれたような気がした。
- ・家族に負担がかかるので病院などいいかなと。でも今日の説明で何とか自宅でも可能な気がした。
- ・訪問看護を利用する。2 名
- ・介護は複数人でやる。相談できる人をもつように、したいと思います。

- ・もし両親が介護の必要な状態となった場合は、可能な限り自宅で過ごして欲しいと考えています。
- ・家で過ごすのが一番良いが、狭いのでどうかなと思います。
- ・家族の相談役、関係機関との相談が大事だと思いました。
- ・相談できる人、所を常に用意しておきたい。
- ・地域包括支援センターに相談します。 8名
- ・ケアマネージャーに相談します。 3名
- ・介護をする人がいない。どうしたら良いのか。
- ・必要になる前に死にたい (40代 男性)
- ・病院 (80代 女性)

④今回の講演で印象に残ったことを自由にお書きください

- ・地域全体での関わり大切さ。困ったときはどこに相談しても大丈夫ということがわかった。
- ・自分も主人を家で最期まで看れたのでよかった。本人もそれを希望していた。最期は子供たち、孫たちも死に目にあうことができ、よかった。現在、一周忌もすみ、ひと安心しています。これからは自分も子ども達に迷惑をかけないように頑張ります。
- ・年齢を重ねると、不安な事が多くなりますが色々助けていただくことがありそうです。少しホッとしました。まだまだ勉強不足とも感じました。
- ・他人事ではない。看護の話、こんなに見守ってくれるのをありがたいと思います。心強いです。いざという時に、助けていただこうと思います。
- ・看取りや自分の死について、色々考える機会になった。
- ・現在、1本杖を使用している。在宅療養は熱意で出来るか、家族で見るのが最もだと思うが、現状ではできない。
- ・とても勉強になりました。(2名)
- ・癌のとき24時間麻薬投与で痛み止めをしてもらえることを知り、安心しました。
- ・いつも支援を提供している側として、サービス提供を受けた側の経験という話を聞くことができよかった。
- ・小脳変性症になり歩行も不自由になりました。今日の講演はとても有意義でした。
- ・自分ひとりでなく助けてもらうのもいいなと思った。
- ・ご本人の意思、家族の協力、理解。
- ・他の家族と相談して、皆の方向性を一緒にして看取りができる。
- ・介護者1名の看取りでは無理ということがよくわかりました。自身も疲れ、苦しい毎日でした。時代が違っていますが、誰の助けもなかったです。(70歳代 女性)
- ・介護者・遺族の実体験の話がよかった。4名
- ・訪問看護師の話がとても参考になった。
- ・ケアマネの話が具体的でわかりやすかったです。
- ・看取り介護をされた方、ご苦労さまでした。
- ・在宅医の話がよくわかり、参考になりました。 3名

- ・地域の力は大事。地域包括を活用する。
- ・地域の方が多く、参加されて熱心にお話を聞かれていて関心しました。
- ・大変貴重な時間を過ごすことができました。
- ・いろいろな専門職の関わりがきけてよかったです。 4名



2. 今後の課題

アンケート結果から、過去に相談する窓口がわからず個で頑張って苦しい毎日だったという言葉もみられた。介護保険が2000年に始まり、すでに20年以上が経過するが、介護に縁がなかった人々には、どこに相談して、どんな支援がうけれるのか全く、未知の世界であると推察する。その結果、82%の参加者が、今回の市民講座が期待に沿うものであったと回答している。

また今回、参加された方の8割以上の方が、今後の在宅医療に関する理解が深まったと回答している。実際にまずは相談する。サポーターを増やすなどの意見があったのは、市民講座を開催したうえでの成果である。しかしながら世の中には、介護疲れから痛ましい社会ニュースを耳にすることも多く、介護が必要になったときに、相談する窓口がわからず抱え込んでいる国民が多いと思われる。そのことから、今回のような在宅医療を普及する啓発活動は必要と思われる。

今回、一番好評であったのは、介護者の話であり、専門職ができることをアピールしたところで、無知のことには不安がつきものであるが、在宅医療のメリット・デメリットを伝えたい、「気持ちはゆらぐこともある。しかし傍に相談者がいることで、継続できた。」のあたりが、参加者の心に響いたようである。そういった点からも、次回の機会にも専門職のみならず、介護している当事者に登壇していただける企画が重要であると考えます。

4. 活動成果等の公表予定（学会、雑誌）

現時点ではなし。